

世の中では働き方改革が進んでいるようである。教員の場合は、教職員多忙化解消という取組を進めている。日本の中学校の先生は、世界一忙しいというデータが世に出た。「まあ、そうですね」というのが私の反応である。

世界一となれば、通常はすばらしい、ありがたい結果となるが、この場合は、そうは言えない。先生方の忙しさが裏付けされたというだけのことである。このままでいいわけではない。問題は、先生方を取り巻く環境が複雑化・多様化してきており、学校に求められる役割がどんどん増えていることである。その結果、体調を崩してしまう教員も少なくはない。

不思議である。パソコンに加えて、性能のいいコピー機や印刷機もある。ICTもある。昔と比べれば、格段に事務処理は短時間で済むはずである。にもかかわらず、忙しさが加速していく。まさに多忙化である。次から次へとやるべきことが下りてくる。だが、これをやめますというのがない。今度これをやるから、今までのこれをやめますならば、まだわかる。何も減らさず、やるべきことだけがが増えていけば、結果は多忙化となる。

何が一番問題かといえば、長時間勤務である。時間外の勤務時間である。やるべきことは多いのに、いかにして勤務時間を短縮化していくのか。校務のデジタル化、スタッフの増員、部活動休養日、部活動練習時間などが、その答えとなろう。

私の場合、11年ぶりに中学校に戻ったので、昔と今を比較してみる。パソコンのデスクトップにデジタル校務というものがある。昔、こういうものがあればいいのに、と思っていたものが、今は目の前にある。

特別支援教育協力員、生徒支援教員、学校司書、部活動指導員、スクール・サポート・スタッフ、サポートティーチャー、これらの方々が、現在の野田中学校に配置されている。スクールカウンセラーとALTは昔から配置されていた。他にもスクールソーシャルワーカーの方にお世話になることもある。

月曜日の午後、出張が終わり学校に近づくと、生徒がどんどん下校していく。「なぜだ」と考え「ああ、部活動休養日か」と気付いた。土日もいずれかは休みとなっている。練習時間はというと、平日が2時間、土日などの休業日が3時間である。昔とは隔世の感がある。日本の中学校の先生方の忙しさの要因の一つが部活動であることを考えると、改善に向かっていることは間違いない。

ここ10年で、中学校はずいぶん変わったことがわかる。国や県、市の教育行政の賜物である。だが、先生方の多忙感は一向に解消されてはいない。先生方は、時間に少しでも余裕ができれば、授業の教材研究や準備にその時間を使う。また、生徒とじっくり向き合い、よく話を聴いている。長時間勤務を改善するのは容易なことではない。せめて多忙感がやりがいにかわればと思う。

とりあえず、多忙化はくい止められているように感じる。後は、決められた時間の中で、いかに業務を効率よく、手際よく進めていくかという先生方の業務遂行能力であろう。ポイントはプライオリティ、すなわち優先順位である。また、部活動も同様である。時間が短ければ、練習内容の工夫などが必要になる。練習の質的改善である。

自由というと、聞こえはいいが、自由な状態からは工夫は生まれにくい。制限や制約が多ければ多いほど、工夫やアイデアが生まれる。短い時間でいかに多くのものを生み出すか、これからの教員に課せられた課題である。